

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 写真や動画の投稿について考えよう

2 本時のねらい

- (1) 人によって感じ方や考え方が異なることを理解する。
- (2) 個人の権利を尊重し、インターネット上に情報を発信する際の責任について理解する。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入	○実態把握アンケートの結果から、振り返る。	※事前に実態把握アンケートを実施していない場合は、「SNS上に写真や動画を投稿したことがあるか」などを聞き取り、挙手させて利用状況を共有する。
	インターネット上に写真を投稿するときどのようなことに気をつけるか考えよう。	
展開	<ワーク1> 1 2 3 の画像	
	発問1： この写真をSNSに投稿したときの気持ちを考えてみよう。	
	*投稿する人の立場で考える ○撮影した写真をインターネット上に投稿する時の気持ちについて話し合う。 (例) ☐ 友達だちに見せたい ☐ 家族に見せたい ☐ たくさんの人に知ってもらいたい ☐ 見る人に喜んでほしい ☐ すごいと思ってほしい	・面白い写真や人に教えたくなる（自慢したくなる）写真ができたときの心理を想像させ、本時の課題につなげる。
	発問2： これらの写真がSNSに投稿されてもいいと思いますか。	
	*投稿された人の立場で考える ○ 1 2 3 の画像を見て、SNS上に投稿されてもいいか、悪いかを考え、その理由をワークシートに記入する。 ○グループで、理由を出し合う。 ・見る側の受け取り方で見方や思いも異なることを理解する。 ・SNSに投稿してよい、悪い、の基準が個人によって違うことに気付く。	・「投稿されてよいと思う写真」は、自分と他者では違うことに気付かせる。 ・ネット上に投稿してよい、悪い、の基準が個人によって違うことを踏まえ、自分の判断でのネット上への情報の発信は、トラブルが起る可能性があることを理解させる。 →自分では気付かないうちに「不適切な写真を公開してしまうかもしれない」という自覚を促す。

<ワーク 2> *第三者の立場で考える	
発問 3 : 写真を SNS に投稿したらトラブルが起きました。どのような問題が起きたか考えてみよう。また、問題が起きないためにできることを考えよう。	
○見つけた問題点を書き出す。 (例) □関係ない人が写っている □よく考えずに写真を送った □嫌な気持ちになる人のことを考えなかった □本人の許可を確認せずに投稿した □嫌だと思ふ写真を撮影した □写真を加工した □立ち入り禁止のところに入ってしまった行為に問題がある □ SNS で公開すると拡散してしまう □制服で学校名がわかる □炎上する ○事例の問題点を整理して、トラブルを防ぐためにできることをグループで考える。 (例) 注意すべきだったこと □自分がされたら嫌な思いをしないか考える □人を傷つけることになるのではないかと考える □恥ずかしい写真や動画は、撮らない・撮らせない・送らない □モザイクをかける ○自分が意図していないことが起こりうることに気付く。	・同じ場面で自分ならどうするのかを考えさせるように支援する。 ・それぞれの写真のどこに問題があると考えたかを共有させ、発表させる。 ・ネット上に公開した情報が、この先どのように扱われるかリスクを想像させる。また、悪用（無断使用、拡散、個人の特定）される可能性があることをその都度、考えて判断することを理解させる。 ・投稿された写真は今後 どうなるのか ・写真は回収できるのか ・自分の将来にどのような影響が及ぶのか 【例示】 個人情報流出 ⇒ 個人特定、なりすまし、誹謗中傷 など 犯罪やトラブルに巻き込まれる可能性を理解させる。 <u>*留意事項 1</u> 画像 3 においては、前提として、写真の投稿以前にしてはいけない行為であることをおさえること。 ・インターネットの特性や情報の取扱いについて板書して確認する。 (肖像権) : 本人の許可なく、顔や姿を撮影、公表されない権利のこと (個人情報) : 個人情報とは、個人を特定できる情報のこと。名前、住所、電話番号、学校名、生年月日など (公開性) : 全世界に公開されている (記録性) : 一度発信した情報を全て消し去ることはできない。保存されて残る。 (拡散性) : コピー、転送、加工が簡単にできるため、情報が広まる

	○インターネットの特性や他人に与える影響について考え、今後、どのようなことに注意すべきかを理解する。 ・権利（人格権、肖像権）を守ることは、様々なトラブルから個人を守ることに繋がっていることに気付く。	・意図的に悪意を持って発信された画像等は、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することを確認する。 ・友だちが嫌な思いをしないか、傷つかないかをよく考えることが大切であることを理解させる。
	まとめ：写真や動画を投稿するときには、どのようなことに注意する必要があると思いますか。	
まとめ	○授業の振り返り ・画像① ② ③について、再度、ネット上に投稿することが良いか、悪いかを考えさせる ・適切な情報発信やそれに伴うトラブルを回避するための方法についてワークシートにまとめる。 ・学級で共有する	・情報発信するときに注意することの意見をまとめて板書する。 ・本時の学習を実生活に生かすように助言する。（レポート作成や作品制作など学習用端末使用して画像を扱う場面を振り返らせるなどするとよい） ・インターネットやSNSを利用している中では、被害者にも、加害者にもなり得ることを伝え、困ったことがあれば、自分一人で抱え込まず、大人に相談する大切さを伝える。

4 評価

十分満足できると判断される状況

撮影された画像の正しい扱い方について、それぞれの立場に立って考えることができる。

努力を要する状況への手立て

他人の意見を聞くことにより、それぞれの立場によって、考え方や感じ方が異なることを理解させる。

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ・インターネット上に発信された画像等は、見る側の受け取り方で見方や思いも異なることを理解しなければならない。ましてや、意図的に悪意を持って発信された画像等は、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することも考えられる。誰にでも起こりうるインターネットへの投稿写真の事例を基に、投稿する側、投稿される側、第三者の立場と、さまざまな立場から考察することにより、その危険性をわがこととして実感することにねらいを置いている。なお、本レッスンでは、SNSやインターネットの特性の正しい知識理解を促すため、教員のサポートが大切となる。

(2) 指導の方向

- ・情報を発信した先には見えない相手の存在があることに気付かせ、SNS等の投稿がどのような影響を他者や自分に及ぼすかを知り、投稿する前にもう一度冷静に内容を確認し、適切に判断できる思いやりのある態度を身につけさせたい。

- ・インターネット上に公開した情報の特性を理解させたうえで、自他の情報の安全な取り扱いと責任について考え、情報をSNS上に投稿する際のルールやマナーを守ることの大切さを理解させたい。

(3) 工夫するとよい点

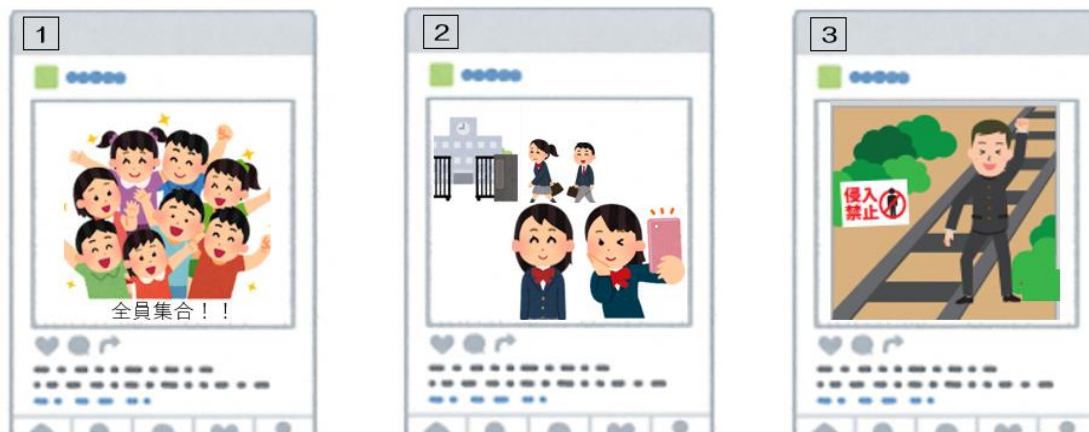
- ・危険と思われることや児童生徒が抱いた違和感を数多くあげることにより力点を置く。数が多いほど、投稿の可否となる境界に児童生徒が自ら気づきやすくなる。教員は児童生徒が挙げた例を適切に取り上げ、グループでの議論が円滑に進むようにサポートする。
- ・画像3のように犯罪にあたるものがあることにふれ、日常生活でやってはいけない行為と同様にルールやマナーを守ることの大切さについて理解させることが重要である。
- ・学習用端末を使用したトラブルの発生も考えられる。児童生徒が安全・安心に端末を使用できるよう、授業の振り返りの場面で、これまでに学習用端末を使って作成したレポートや作品について、自らの情報の取扱いが適切であったかを振り返らせ、端末やインターネットの特性と個人情報の扱い方を正しく理解しながら使用する意識付けを行うとよい。

レッスン3

写真や動画の投稿について考えよう

年 組 名 前

- ◆ あなたが、**1**～**3**の写真をSNSに投稿しました。そのときの気持ちを考えてみよう。



①クラスの集合写真	②学校の前で友だちとの写真	③ノリでふざけて撮った写真

- ◆ これらの写真をネット上に投稿されてもいいと思いますか？
許せるものに○、許せないものには×をつけてみよう

	① クラスの集合写真	②学校の前で友だちとの写真	③ノリでふざけて撮った写真
たくさんの人が見るSNS			
限られた友だちしか見ないSNS			
画面上で人に見せる			
理 由			

- ◆ 写真を投稿したらトラブルが起きました。起こった問題を考えてみよう。
また、写真を投稿する時に問題が起きないためにできることを考えよう。

			
起こった問題			
問題を防ぐためにできること			

- ◆ ネット上に写真や動画を投稿するとき、どのようなことに注意していくか、まとめよう。